

(博士論文要旨)

## 2008年度青森県立保健大学大学院博士論文要旨

### 難病患者の在宅療養生活支援に関する研究 ～痰の吸引における安全な在宅医療の提供及び看護職の役割の検討～

分野名 看護学

学籍番号 0694004

氏名 其田 貴美枝

#### I はじめに

痰の吸引は、当面の措置として家族以外の者による吸引が容認された。本研究では、訪問看護職及び訪問介護職が連携し痰の吸引を行う際に生じている問題事象（ヒヤリ・ハット事例）を収集し要因を分析し、痰の吸引における安全な在宅医療提供及び看護職の役割を検討することを目的とする。

#### II 研究方法と対象

研究デザイン：関連因子探索型研究、調査①痰の吸引を訪問介護職と連携し実施している訪問看護職22名への面接調査、調査②在宅で起こり得る痰の吸引に関連する問題事例を厚生労働省が公開している「医療安全対策ネットワーク整備事業(ヒヤリ・ハット事例収集事業)」29,589例より28例(0.09%)をデータとして調査①を補足した。調査③痰の吸引を行っている訪問介護職26名の面接調査。分析方法：面接調査により得た痰の吸引ヒヤリ・ハット事例は、リスク分析手法であるRCA並びにP-mSHELLモデルにより要因分析し、健康問題、発生状況、主要因別に分類整理した。また、医療職と訪問介護職の連携状況を整理した。倫理的配慮：調査①③は、同意の得られた者のみに行き、調査②は、既に病院名や個人名がマスキングされた公開資料を用いた。本研究は、青森県立保健大学研究倫理委員会の承認を得ている。

#### III 結果

調査①より15例、調査②より28例、調査③より33例、全76例のヒヤリ・ハット事例を分析した。痰の吸引に際し生じた健康問題に関するリスクは、以下のとおりであった。気道閉塞(43例、56.6%)、低酸素症(13例、17.1%)、気道粘膜損傷(9例、11.8%)、感染(5例、6.6%)、身体損傷(4例、5.3%)、中毒(2例、2.6%)に関するリスクが発生していた。痰の吸引の全過程においてこれらリスクが発生していた。健康問題に関するリスクの主要因は、吸引器材管理不十分23例、不適切な吸引手技19例、気道管理不十分15例、状態アセスメント不足12例、人工呼吸器管理不十分7例であった。訪問介護職は不安を抱えながら痰の吸引に関わっていた。

#### IV 考察

看護職は、在宅で安全な痰の吸引を行うには、痰の吸引に関するリスクに対し、吸引器材管理、気道管理、状態アセスメント、人工呼吸器管理、訪問介護職の痰の吸引技術支援及び訪問介護職が持つ不安へ対応する必要があるとあり、これら背後要因を考慮した予防策を講じることが看護職の役割として重要であることが示唆された。